

INFORMATION

～よみがえる江戸の粋～ とちぎ秋まつり



江戸との舟運で栄えた商都「小江戸とちぎ」には、今でも商人の心意気が残っています。豪華絢爛な山車が蔵の街を巡行する「とちぎ秋まつり」は、栄華を極めた往時の栃木を彷彿させます。江戸末期から明治にかけての美術工芸の粋を集めた人形山車、そして山車同士がお囃子を競い合う「ぶっつけ」は、祭り一番の見どころです。

- 日程/平成24年11月9日(金)～11日(日)〈9日〉こども山車まつり〈10・11日〉本まつり
- 場所/栃木市とちぎ蔵の街大通り



うずま冬ほたるキラフェス

蔵の街を流れる巴波川の両岸を約3万個の発光ダイオードで飾り付けします。水面には光が反射し、幻想的な雰囲気を演出します。

- 日程/平成24年10月19日～平成25年1月14日
- 場所/巴波川(うずまがわ)幸来橋周辺



光と音のページェント

街が約8万個のLEDで装飾され、冬の夜の輝きを演出する。「シンボルツリー」の幸せの鐘を大切な人と一緒に鳴らし、光と音に酔いしれるひと時を過ごしてみたい。

- 日程/平成24年11月下旬～平成25年1月上旬
- 場所/プラッツおおひら周辺



太平山もみじまつり

紅葉の名所・太平山において、「太平山もみじまつり」が開催されます。期間中は紅葉のライトアップ、太平山観光写真コンテストの作品展示など、さまざまな催しを行います。

- 日程/平成24年11月中旬～12月上旬
- 場所/太平山

おもちゃのまち パンダイミュージアム



▲高さ約5.6mの原寸大ガンダム胸像 ©創通・サンライズ

あなたも原寸大のガンダムを見に行こう

おもちゃのまちパンダイミュージアムは玩具を主とした博物館です。約30,000点のバンダイコレクションの中から厳選したコレクションと、それらの研究成果を公開した4つのテーマミュージアムがあります。ほかには、歴代の合体ロボが一堂に集結したエリアや、バンダイならではの企画展エリア、子どもが遊べるプレイエリア、高さ約5.6mの原寸大ガンダム胸像、ピクニックもできる広大な芝生にはミニ鉄道も運行しています。数々の貴重な展示品などから文化史を学ぶことができ、家族で一日楽しめる人気の施設です。



- 所在地/下都賀郡壬生町おもちゃのまち3-6-20
- 開館時間/10:00～16:30
- 定休日/年中無休
※臨時に休館することがありますので、<http://www.bandai-museum.jp/> でご確認ください。
- 問い合わせ/TEL 0282-86-2310 (バンダイコレクションセンター内)
- 入館料/大人1,000円(団体800円)
小人600円(団体400円) ※団体は20名から
- 最寄駐車場/専用駐車場あり
- アクセス/壬生ICから約5分、石橋駅から車で約15分、おもちゃのまち駅から徒歩約10分



DAMS WORKS

私たちの暮らしとダムの働き

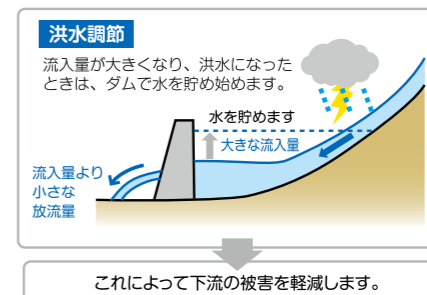
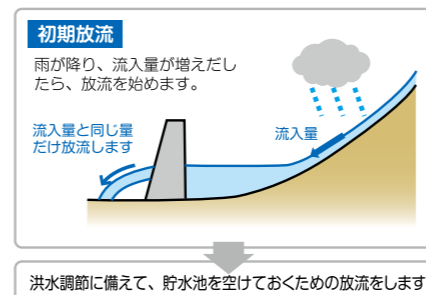
ダムは、大雨による河川の氾濫を防いだり、農業用水や都市部への水の供給、さらには発電による電力供給など、ダムは暮らしの中で重要な役割を担っています。私たちの生活を潤し、人命や財産を守る上で欠かすことができない働きをしています。



大雨が続くと、たびたび洪水被害が起きていました。ダムがないと、川の水があふれて、家が水につかったり、流されてしまうこともあります。



ダムは、大雨のとき水を貯め、一度に大量の水を流さないよう川に流れ込む水の量を調節し、下流域の洪水被害を防ぎます。これを洪水調節といいます。



洪水調節に備えて、貯水池を空けておくための放流をします。

これによって下流の被害を軽減します。

情報提供：国土交通省 鬼怒川ダム統合管理事務所

謎シリーズ Vol.1 ? ナゾの日光

世の中、なんと謎だらけなのではないでしょうか！そんな謎を皆さんと一緒に探っていきます。第1回目は、日本にある世界遺産16地域の中でも、京都、奈良に次いで3番目に観光客数が多い、日光の謎に迫ります。日光という地名、なぜ日光なのでしょう？これが今回の謎です。



▲左が男体山、右が女峰山 ▲男体山麓の屏風岩

日光市を英語で言えばサンシャインシティー…カリフォルニアの香りがするようなネーミングですね(何も英語にする必要はないけれど)。でも、日光という名前とは裏腹に、日光市は年間日照時間1,600時間余りです。お日様の出ている時間が少ない地域なんです。ちなみに、栃木県の平均年間日照時間は1,900時間程度です。

なぞらえ、フダラク～フタラ(二荒)～二荒(ニコウ)～ニッコウ～日光となった説。二つ目は男体山と女峰山の二体の男女の神様が現れたので、フタアラワレ(なんともセクシーな神様)となりフタラになって二荒から日光となった説。三つ目はアイヌ語で熊笹のことをフトラと言うそうですが、日光には熊笹が多く、フトラからフタラ、そして日光となった説。四つ目は男体山麓の屏風岩に風神と雷神の二つの荒れる神様が住んでいて、それが二荒になり日光となった説。いずれも二荒から日光になりましたが、これは弘法大師が良い字に変えたといわれています。

余談はさておき本題に入ります。まず一つは、仏教の聖地インドの南方に八角形状の補陀落山(ふだらくさん)という観音菩薩の住んでいる山がありまして、日光の山々を補陀落山に

さて、この謎には諸説ありますが、定かではありません。ここが謎の面白さです。